

第4回栃木県農政審議会における主な発言内容

【計画案について】

- ・ 多様な価値観や農村ファンなどの言葉が盛り込まれ、開かれた計画といった印象を受ける。計画に基づく取組を積極的に情報発信して欲しい。
- ・ 経済性に加えて多様な価値観が入り、それを地域の活性化につなげるという内容が盛り込まれており、現在、農業をしている方、新しく農業を始める方にも窓を開くといった計画になっている。
- ・ 大自然の中で暮らしていくといった栃木県の農業のイメージ、そういう視点も含めて計画の方向性を示していけるとよい。

【計画の実現に向けて】

- ・ 農村全体の活力を維持するには、非農家も含めて地域全体でどう地域を守るか、そして地域に根差す農業をどうやって発展させるかという視点が大変重要である。
- ・ 栃木県は水田の割合が高いので、とちぎ広域営農システムは画期的な取組である。もう一度広く地域を見渡して、集落営農組織の再編等を進めていかないと効率化は図れないと思う。本県の農業に関わる一員として、しっかりと取り組んでいきたい。
- ・ 冷凍野菜工場や青果物集出荷センターの整備計画を進めることで、一元的な集荷・販売が可能となり価格競争力が高まる。稼げる農業の実現に向けて、販売面から支援していく。
- ・ 畜産において、耕畜連携は大切であり、また、新規就農者を地域で受けるといった環境づくりも重要である。次の世代につないでいくためにも、現場で骨を折っていく。
- ・ 国が掲げるSDGsの課題に、生物多様性の問題がある。農業が持つ役割の中で、水田の維持は非常に需要であることから、良く考えて施策を実行してもらいたい。
- ・ 農業には、見つかっていない可能性の扉があり、まだ開けられていない部分がたくさんある。持続可能な社会を構築する上でも、農業の可能性を探り、形にしていきたい。
- ・ 農福連携は、他産業や学校給食などへの理解が進めば、雇用や、生産から消費まで循環する仕組みとなる。食の安全・安心への理解促進や食農教育など女性農業者が活躍する場を更に増やしていきたい。
- ・ プランの実現に向けて、県には、強いリーダーシップの発揮を期待する。